

- ① 開催年月日 平成30年7月26日 14:00～16:00
- ② 開催場所 宇治商工会議所(京都府宇治市宇治琵琶45番地の13)議員懇話室
- ③ 委員の出席 委員総数 7名
出席委員数 4名
放送事業者側出席者 局次長、ディレクター

④ 議題

(1) 「ちはやぶるラジオ～同志社大学プロジェクト科目編～」

(2) 報告事項

地球温暖化対策の啓発事業「宇城久COOL CHOICE大作戦」について
8月2日からの新番組について

⑤ 議事の概要

聞きやすい掛け合いになっている、学生から見たお茶に関する事をバランスよく紹介できていたが、宇治茶と他の対比ができてるとより一層よかった。

学生との番組は新しい番組作りになるので、積極的に取り入れることはFMうじにとってよいものになるとの意見が多数出された。

⑥ 審議内容

ディレクター 「ちはやぶるラジオ～同志社大学プロジェクト科目編～」の審議をお願いします。

「ちはやぶる宇治の未来をつくる会」による番組のスピンオフとして30分番組を4日間連続で放送しました。

この番組では同志社大学のプロジェクト科目「メディアを活用した歴史まちづくり観光」を学ぶ学生たちが、4つのグループに分かれて大学生独自の視点で宇治の魅力を見つけてどの様な番組を作るか企画を立て、実際に取材して台本を作り、FMうじで収録するという流れになっています。

このプロジェクト科目というのは、地域社会の企業の方々に講師になってもらい学生が現場に学び総合的人間力を身に着ける実践型の授業とのこと。

1日目「宇治を歌で探る」がテーマです。歴史的な和歌もたくさん残っているという事もあり、宇治どうたをつなげて、歌で活動している人やお店を取材しています。

2日目は「お茶で巡る宇治」、お店やお茶の作り方、歴史を振り返る内容です。

3日目は「宇治で働く人」、観光のお店や人力車をひいている方など、宇治周辺で働く人を取材し、宇治で働く魅力を聞く内容です。

4日目は、今日が放送日です。「インスタ映え 宇治」がテーマです。インスタグラムに載せる宇治の魅力的な景色を探することで、宇治のいいところを伝える内容です、また、宇治の写真家が経営しているコンセプトショップで写真の撮り方のアドバイスをもらったりもしています。

今日は、2日目の「お茶で巡る宇治」を聞いていただきます。

実際に宇治を回り、お抹茶を味わったり、茶園に覆いをすることによってうまみ成分を守っていることに新鮮さを感じたり、茶室の良さを体験したりなどといった内容になっています。

～同録～

委員 見せてもらっている台本を作って、これにそっての放送ですか？

ディレクター そうです。4グループとも、メンバーで台本を作っています。放送の練習もしっかりとしていたようです。

番組の構成も含めて授業の一環で行っていた様です。

委員長 男性2人、上手で聞きやすかったですね。女性2人もよかったですよ。バラエティに富んでいて

聞きやすい掛け合いです。

こういったお茶を題材とするものは切り口が色々ありますが、学生さんから見てバランスよく取り上げて構成され、よくできていたと思います。

こうして、若い人が出てくるのはいいですよ。SNSでどんどん発信してもらったらって、学生はメディアを、こちらは学生を、お互いに活用していくと相乗効果があるのでいいと思います。

お店の名前を出していましたが、聞いている側は親しみが持てていいですが、放送する側は、気を配るようにした方がいいと思います。

委員 限られた時間なので、お茶のすべてを紹介するのは無理だと思いますが、全国にお茶の産地があるので、覆いをした茶園が宇治独特であるのか、他産地でもやっているのか、なぜ宇治茶が有名になったのか、もっと宇治のお茶の特徴の紹介が欲しかった。

委員 抹茶のスイーツも食べておられましたが、感想が美味しかっただけでしたし、できれば他との比較もあれば、より分かりやすかったのではと思います。

委員 他県から来ている学生さんもいましたよね。宇治を見てどう思うか、自分の出身地と比べてどう違うのか、リアルな感想があるとよかった。

委員長 お茶に関して詳しい人がいるとよかったですね。事前にしっかりと調べたうえで取材に出ることが重要です。内容がより深くなります。

委員 映像がないぶん、言葉だけで伝えるのはなかなか難しいことですね。

また、「お茶」という大きなテーマなので内容が散漫になってしまいますね。

委員長 今回のこういった企画はもっと積極的に取り入れていくといいですよ。こちらからかかわっていく事は新しい番組作りとしていいものだと思います。若い人たちにもメディアを活用してもらい、こちらも学生さんに協力してもらい地域の事を発信していくことは相乗効果があっているのでは。